

◎秋田市通信 學會雜誌によせ書出來の規定なれば知らぬ事、岡山の京橋を知つてゐる男達が集つた時、衛生課の課長さんも、片田舎の藪醫者も岡山同窓と云ふ一つの流れに合した時、殊に日本一の秋田美人がこんな集つた時に只規定のみでこのうれしさを知らぬ顔出來ず、諸先輩によせ書をお願いしてここにこの端書をよす。岡山の空気を吸つた人々よ、學術のみが世の中ではない時に集りの知らせするを忘れ給ふな。未拜見の榮を得ざる赤岩先生に特にこの點御願申上候。(中村泰吉)

秋田音頭 難産する時一生しないさ高言ぬかしやつて十日もたたずに又クツと入れたらこれだけ死んでも良い (勅)

秋田市に於ける岡山出身會仲々の盛大 (穂積)

酒は甘し、女は美、長い冬の夜も一瞬 (篠)

人世人……三味線……盃……枕 矢張りこれだ (泰吉)

在秋田市岡山出身醫家

秋田縣衛生課長 勅使河原 文 (大正二年卒業)

秋田病院内科 河野通武 (大正元年卒業)

尾去澤嶺山警局 篠原一幸 (大正八年卒業)

秋田市秋田病院 穂積孝悌 (大正八年卒業)

支那よりの歸り今度九州で開業される中村泰吉 (大正八年卒業)

岡山醫學會彙報

岡山醫學會通常會

同會は岡山醫大各科集談會と合同し本月十七日午後三時十分より岡山醫科大學附屬醫院南臨牀講義室に於て開會す田村主幹開會を報し直ちに左の講演に移る。

第一席 腎臓内の動脈内膜に於ける隆起に就て

解剖學教室 佐藤俱正君

演者は腎臓内に於ける動脈壁の構造を檢索し動脈の分岐部及び非分岐部に於て恒に存在せる内膜の隆起に注意し、生後6箇月より73歳に到る約50例に就て精細なる檢索を遂げ、其隆起の位置、状態、構造及び其年齢的差違を述べ、次で此隆起は生理的に存するものにして腎臓内に注入する血量を種々に調節するに意義あるものならんとの想像を下せり。(自抄)

第二席 「いどめ」 Ceratocephale Osama の定期群游に就て

生理學教室 生 沼 曹 六 君

君の講演は本誌第 432 號に掲載すべし。

第三席 パンチ 氏病に對し脾臟剔出を施せる患者及び標本供覽

赤岩外科教室 菅 野 大 作 君

(抄録未着)

第四席 脾臟結核の二例

病理學教室 河 村 九 十 九 君

演者は從來の文獻を引用して脾臟結核は稀有なる事を述べ自家實驗²例の結核形成の時期及び其の發生徑路に就て次の如く述べたり。

第 1 例. 16 歳, 男. 慢性結核屍. 本例の脾頂部竝に脾體部に互る周圍淋巴腺に陳久性高度の乾酪化結核形成ありて周圍結締織は脾實質と強く癒着し脾小葉間結締織に炎症浸潤の移行聯絡を認め, 脾頂部竝に脾體部の結節の多くは乾酪化し陳久なる像を呈す. 此の陳久性結核竈の中心には屢々大なる血管の存在を認む. 此等の血管は壁に異常厚きか, 或は血管壁硝子様變性を呈せるも中に尙ほ血球を容れたる管腔を有し結核性變化は主として此等血管を中心として其の周圍組織に認めらる. 尙ほ脾全體に互りて間質に占居せる結核結形成をも認む. 此等の事實より本例の結核形成は主として淋巴道を經て續發したりと認むべし. 尙ほ脾尾部に於ける新鮮結核竈は同時に本屍の肝臟脾臟等に認めらるる粟粒結核と類似する所見を示し其の成立は悉く血行性なる可く即ち本例脾臟に於ける結核形成の二次的なる事を述べたり.

第 2 例. 21 歳, 男. 慢性結核屍. 本例は脾尾部に於てのみ間質を中心として發生したる結核形成を認め附近の淋巴腺に陳久性結核竈ありて之に接する小葉間結締織に炎症浸潤あるは第 1 例に同じく本例の結核形成は淋巴道により續發したるものならんを推論せり. (自抄)

右終りて午後五時閉會.

役 員 會

本月二十四日午後三時より岡山醫大會議室に於て本會役員會を開く出席者は

田村庶務主幹, 皆見編輯主幹, 石本, 池上, 生沼, 奥島, 柿沼, 掛谷, 田中, 田川, 藤原, 赤澤, 北山, 白坂, 庄司, 清水, 關場の各評議員

にして左の事項を議決し午後四時閉會す.

1. 第三十七回總會を大正十五年二月二十, 二十一日の兩日岡山醫科大學大講堂に於て開會すること
2. 同總會第二日懇親會を本市内山下社交俱樂部に於て開催すること